

## 研究機関名：東北大学

受付番号：	2013-1-508
研究課題名	集中治療部における高流量酸素投与システムの使用状況の調査
研究期間	西暦 2014 年 2 月（倫理委員会承認後）～2014 年 6 月
対象材料	<input type="checkbox"/> 病理材料（対象臓器名 _____） <input type="checkbox"/> 生検材料（対象臓器名 _____） <input type="checkbox"/> 血液材料 <input type="checkbox"/> 遊離細胞 <input checked="" type="checkbox"/> その他（診療録内の記録、データ）
上記材料の採取期間	西暦 2011 年 1 月～2013 年 12 月
意義、目的	<p>様々な理由で低酸素血症を来した患者には、通常酸素投与（酸素療法）が行われる。用いられる器具は多岐にわたるが、その一つとして酸素を高流量・高濃度で投与するハイフローシステム（High Flow：HF）というデバイスが開発され、臨床で使用されている。</p> <p>患者の呼吸不全が軽度であれば治療は低流量の酸素療法から開始し、状態が悪化した場合は高流量、さらには非侵襲的陽圧換気（Non-invasive positive pressure ventilation：NPPV）や、気管挿管を行ってからの人工呼吸と進んでいく。患者の状態が改善してくれば逆方向に治療を進めていくことになる。HF は、低流量酸素投与から NPPV 領域の一部分までをカバーすることが可能なシステムであると考えられる。</p> <p>今回の研究は、①HF の導入基準、②HF の離脱基準③NPPV、人工呼吸管理への移行率について分析・検討し、集中治療部における HF の使用状況を後ろ向きに検討することが目的である。</p>
方法	集中治療部内にある日本光電製臨床情報システム（Prime Gaia）から HF 導入時・離脱時の種々のデータ（血液ガス分析値、動脈血酸素飽和度、呼吸数、呼吸パターン）、年齢、性別などの患者情報を抽出する。NPPV、気管挿管への移行率や有害事象についてもカルテ記載から抽出する。データは集中治療部内にあるスタンドアローンのコンピュータで暗号化して管理する。
調査項目	<p>1) 患者背景</p> <ul style="list-style-type: none"><li>①年齢、性別、原疾患</li><li>②呼吸不全の成因</li></ul> <p>2) HF 導入時</p> <ul style="list-style-type: none"><li>①導入時血液ガス</li><li>②導入前酸素療法</li><li>③導入前呼吸状態</li><li>④導入時胸部レントゲン写真所見</li><li>⑤導入理由</li></ul> <p>3) HF 離脱時</p> <ul style="list-style-type: none"><li>①離脱時血液ガス</li><li>②離脱時呼吸状態</li><li>③離脱時の訴え、HF の不快感など</li><li>④離脱時胸部レントゲン写真所見</li><li>⑤離脱理由</li></ul>

4) NPPV、気管挿管への移行率

移行理由（血液ガスの悪化、呼吸状態悪化、精神状態、HFの受け入れ悪化）

5) 有害事象

問い合わせ・苦情等の窓口

東北大学病院 集中治療部

宮城県仙台市青葉区星陵町1-1 022-717-7321

実施責任者及び担当者 齋藤浩二